

教育センター研修だより



南砺市教育センター

小学校外国語活動・外国語科導入に向けての研修会①

下記の通り、南砺市小中学校の先生方を対象に、小学校外国語活動・外国語科導入に向けての研修会を実施しました。

1 日時	平成30年5月25日（金）	15:45～16:45
2 会場	南砺市役所	井波庁舎
3 講師	西部教育事務所 指導主事	窪田 俊介 先生
4 参加者	小学校教諭	12名
5 内容	小学校外国語活動、外国語科における指導上の留意点	



【研修会の内容】

1 新学習指導要領の基本方針

○新学習指導要領のポイント

- ・小・中・高等学校で一貫した目標の実現、学校間の接続重視
- ・小学校中学年からの外国語活動の導入
→「聞くこと」「話すこと」を中心とした活動を通して、外国語に慣れ親しみ、外国語学習への動機付けを高める。
- ・高学年での外国語科
→発達の段階に応じて、段階的に文字を「読むこと」「書くこと」を加えて、総合的・系統的に扱う教科学習を行う。



○目標

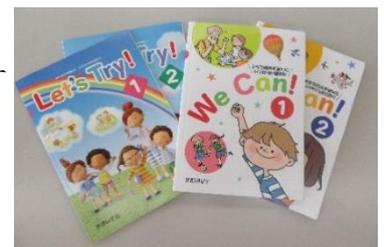
- ・「外国語活動（中学年）」「小学校外国語（高学年）」「中学校外国語」、それぞれのねらいを知っておくことが大事である。三つの共通点と相違点は次のとおりである。

<共通点>

- ・外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせる
- ・言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力の育成を目指す

<相違点>

- ・中学年 コミュニケーションを図る素地となる資質・能力の育成
- ・高学年 コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力の育成
「読むこと」「書くこと」の追加
- ・中学校 簡単な情報や考え等を理解したり表現したり伝え合ったりする



○外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方

外国語で表現し合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、情報を整理しながら考え等を形成し、再構築すること

<三つのポイント>

- ① 相手意識をもつこと
- ② コミュニケーションを図る目的を明確にした場面設定をすること
- ③ どうしたら相手にうまく伝わるか、相手のことを理解するにはどうしたらよいかを考えること

○知識・及び技能

- ・外国語活動 : 体験的に理解を深め、気付き、慣れ親しむ

- ・小学校外国語：実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付ける
読むこと、書くことは慣れ親しみ
(話すこと、聞くこととは指導の質が異なることに注意)

【活動例】

大文字、小文字の読み、書き

音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句を書き写す活動

【取り扱う文の例】

代名詞 (he, she) を含むもの、動名詞や過去形を含むもの

アルファベットの文字を高学年で
読めて、書けるようにする。

- ・中学校外国語：文法の理解

知識・技能をどう活用して
相手に伝えるか

<小学校外国語>

「読み」「書き」…慣れ親しみ
「話す」「聞く」…できるようにする。
×教え込み

<中学校外国語科>
基礎的な技能の「定着」

○思考力・判断力・表現力等

- ・外国語活動：身近で簡単な事柄
- ・小学校外国語：身近で簡単な事柄……………例：職業について
- ・中学校外国語：日常的な話題や社会的な話題……………例：社会的な問題（平和・福祉等）

2 移行期間

- ・H30、31の移行期間の2年間は、3～6年生で「外国語活動」を実施する。
(※5・6年生は、「外国語」の内容を一部取り入れるが、「外国語活動」である。)

○年間計画

資料

各校でもご活用ください

- ① 「移行期間における学習内容例」（文部科学省）
データ：10教育センター¥◎教材◎¥小学校¥「10外国語¥外国語移行期の指導計画 伝達講習より」
- ② 「小学校外国語活動年間指導計画例」「小学校外国語活動単元指導計画例」
(富山県総合教育センターHPよりダウンロード可)
- ③ 「外国語活動・外国語の目標」の学校段階別一覧表（小学校学習指導要領解説 付録6 P168、169）

- ・移行期間の年間指導計画に注意する。（使用する教材、実施する単元・実施しない単元）
- ・We Can!の1単元は8時間で構成→移行期間は2時間や4時間で実施するところもある。
- ・どこをどのように削るのか、指導の計画を工夫して、実施する。

3 新教材

- ・<聞く・話す> 「Let's Play」「Let's Chant」「Let's listen」
「Let's Watch and Think」（映像をたよりに、推測しながら聞く。）
- ・<読む・書く> 「Let's Read and Watch」
「聞くxこと」「話すこと」の活動で十分慣れ親しんだ語や表現を含んだ文章について、内容を推測しながら読む。
- ・<学び直し> ページ左下 例：P.38 ㊦ アルファベットの文字に何度も出会わせるように配置し、学び直しができるようになっている。
- ・<書く> 4線入りの用紙で練習する。
少しずつ、繰り返し、ゆっくりと、機械的ではなく、目的をもった活動を通して練習する。

4 外国語活動から外国語科への接続について

○「慣れ親しみ」（外国語活動）を「定着」（外国語科）に高める指導

- ・授業のゴールを具体的に示す。
- ・定着のための活動量を確保する。（同じ表現を別の場面で使用）（スパイラルな指導）
- ・児童の思考を促す課題を提示する。
- ・できるようになったのかチェックする。

中学校英語の前倒しではなく、
新しい教科である。小学校文化
に根ざした外国語教育を行う。

参加者の感想より

- ・移行期の外国語活動・外国語について、どこが違うのか、何を大切にしなければならないのかが、とてもよく分かった。短時間で内容の濃い研修だった。
- ・移行期では、内容が抜けたり、重なったりしないよう、気を配る必要があることが分かった。
- ・外国語活動と外国語科の違いを丁寧に解説していただいたことが、最も頭に残った。「慣れ親しむ」点と、「定着する」点を明確にして、指導に役立てたい。
- ・今後の授業で、書く、読む、聞く、話す活動を支援していきたいと思った。教えていただいたことを学校の先生方にもお伝えしたい。